

第10回 衛生薬学担当教員会議 議事録

日時：平成28年2月26日（金）13:30～17:30

場所：大阪ガーデンパレス（大阪府大阪市淀川区西宮原1-3-35）

出席者：95名（当日参加1名を含む）

参加校：74薬系大学中66校

委員長挨拶 藤本 陽子（大阪薬科大学）

委員長より、本会議では薬学教育における衛生薬学の現状と今後の対応について活発な意見交換をお願いしたい、また、衛生薬学に関わる職種とその拡大についてご意見を賜りたいとの発言がなされた。次に配布資料（会議次第、出席者名簿、座席表、奥直人先生の講演資料、梶村計志先生の講演資料）の確認が行われた。

議事

1. 薬学教育における衛生薬学の役割（講演）

講師：奥 直人 先生（静岡県立大）

奥先生には、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の目標、改訂手順についてご説明いただいた。次に改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した薬学共用試験および薬剤師国家試験に関する基本方針や変更内容についてご説明いただいた。さらに、日本学術会議で検討されてきた薬学教育の質保証（4年制教育を含む）に関するご説明とともに、薬剤師教育および4年制薬学教育における衛生薬学の果たすべき役割についてお話いただいた。最後に、今般の超高齢化による諸問題への対応として、在宅ケア、地域包括ケアに必要なチーム多職種連携における薬剤師の役割の重要性や、健康寿命の延伸を目指した予防医学を進めていくうえでの薬剤師の関わり方についてお話いただいた。

2. 大阪府立公衆衛生研究所の使命と役割について（講演）

講師：梶村計志 先生（大阪府立公衆衛生研究所・衛生化学部）

梶村先生には、地方衛生研究所の全国での設置状況、職種、職種別職員数、主な業務とともに薬学出身者の配置状況などについてご説明いただいた。また、大阪府立公衆衛生研究所の地方衛生研究所としての共通の業務と特徴的な取組みについてご紹介いただいた。さらに、地方衛生研究所における薬学出身者の活動状況についてご紹介いただいた。最後に、化学物質や放射性物質などによる健康被害未然防止のための大阪府立公衆衛生研究所の初動体制についてご説明いただいた。

3. 薬学教育における衛生薬学の現状と今後の対応（協議）

奥先生ならびに梶村先生のご講演内容、ならびに薬学教育における衛生薬学の役割に関連して意見交換ならびに協議が行われた。在宅ケア、地域包括ケアにおける地域薬局薬剤師の公衆衛生活動（より実践的、専門的な知識や技能が必要となる活動）に対して、衛生薬学で今後どのように対応していくのか、あるいは他教科と連携していくのかについての話題提供があった。それに関連して主に次のような意見交換が行われた。①学校薬剤師の業務が拡大しており、衛生薬学での教育がこれから重要になる。②地域住民に対してセルフメディケーションだけでなく栄養指導まで地域薬剤師が関与していく必要性があり、衛生薬学での教育が重要になる。③薬物の乱用防

止における衛生薬学での教育が現在よりも重要になる。さらに、地域保健や地域医療に関して衛生薬学がどのような教育を行なっていくかについても意見交換が行なわれた。

4. その他

委員長より、衛生薬学担当教員会議の委員長の任期は2年とのことから、次年度の第11回 衛生薬学担当教員会議は藤本陽子（大阪薬科大学）が大阪で開催すること、会場ならびに日時はあらかじめ連絡するとの発言があり、承認された。